

河  
南  
府

ル 4
4992
4









三嶋江

川波

波とやま

芦の角

猿錐



河花

春霞

かきやはのむの

ほのみやまの

ほのみやまの

若心積家





○三嶋江 唐土の下にあり番田村より水と凡二十里あり  
川辺にあり屋あり又船客の待する所とて此所  
より上より下り或は下より上り此岸に舟とつらり上下りり目  
此の地より坂まで陸路行程四里

此地のりり三嶋江或は三嶋江浦玉江とて和歌の名所  
代々の勅撰にまゝ宇治や淡川の流れと帯て浪花を京師に  
通ふ船夜をききとれく櫓拍子と舟歌ひて下りあり  
登る有引船の程長くはるく船長く鉄車とて音清く引  
つる水車の足並御ふりれ若間の虫飛くや時々の一聲も  
月清くはるく船の酒声

驚忽として人眠と夏は初めはるく千鳥を霜  
さす夜みか此三嶋江の風流く何れも和歌の種をねは

三嶋江の入り口の磯ありて我とて君とてひらりり 倭人丸  
二つおのむの鷹とてあやうきものごとくあまもて外もと 柿本人丸

三嶋江渡り 島上郡三嶋江村より河州渡田郡出口村の岸へ渡川とて舟と  
三嶋鴨神社 三嶋江村より延喜式に出唐濟 西園柱中かの生土神あり

祭神より主命 其時の標石今も社前にあらず支字磨滅して分明ならず  
凡土記云御神の神社の大山積命之難波高洋宮御宇此の百の國



















のり菅公流紫と舟下向の... 六月廿五日又き... 柳島 輪道村の前

○輪道

同下りの柳島

輪道村の前

○一津屋

輪道村の

一津屋渡口

島下郡一津屋村より河川渡田郡八番村より渡川と云ふ

神寄川

一津屋村の傍より渡川の流れ西に分れ吹田神寄と云ふ大和田と

江口渡口

右津河川と云ふ一津屋村より江口村への舟より

渡舟之儀昼夜令弛之糸高村之事礼坊振蕪一切  
此分除之若撰俵在之可成敗と状如件

元龜元平九月

信長判

江口村 船頭中

○江口

右津河川の南の岸より

船より... 泉州堺の津より... 耕作の地と云ふ

菅家 川末の江口より芦鶴のより

君堂

同村より日蓮宗宝林山寂光寺普賢院と号し女僧住職

江口君像

本堂より長き尺をより座像其餘普賢菩薩の像と云ふ

山深く... 哀れん

西行





草まふも

心とあはれ

花あつら

魯白

君堂や

ぬらち

つとめ

をのめ

吳逸

きつり

〇  
三  
二  
八



えがら  
江口

きつり  
奇墳

きつり  
君堂

君堂

〇  
三  
二  
八



逆巻  
橋寺  
新川

ひらき  
たんき

海

柳

山川

逆巻より平田までの

向波川の内の流儀

のそ川條二條

より川を新川といふ

は石堂より橋の人ま物

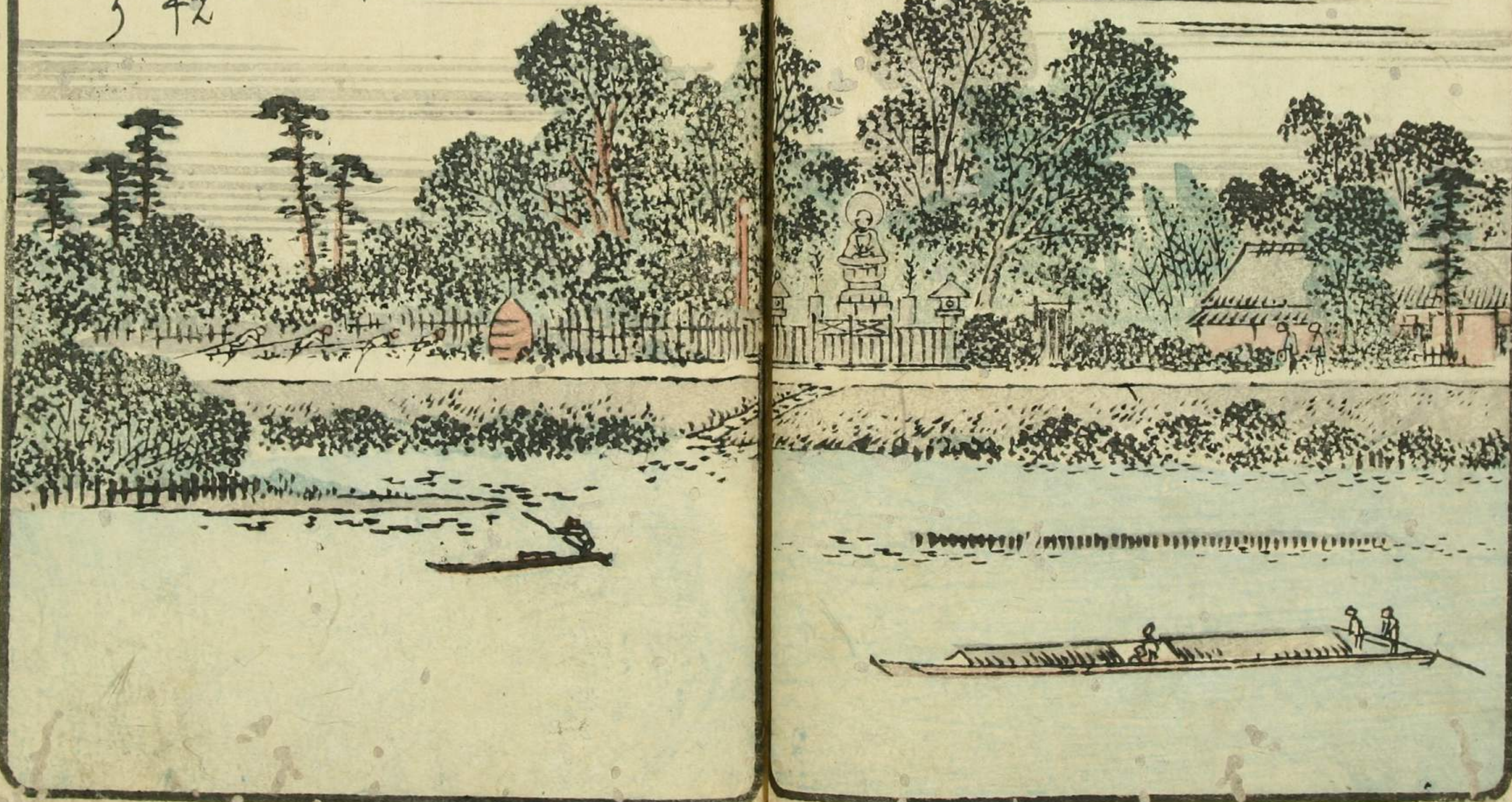
津とて水尾串とて

通船とて舟も舟柱

同川のちと新

石の地をあらう

水死の供養



下  
上  
大



江口城墟 江口の村甲 田中氏の家其古跡ありと

哥墳 同村南の堤より新古今贈答の和哥と石刻とを建す  
北の方へ西行法師の墓南の方へ陸女妙の墓

新塚 世の中とていふまゝとていふまゝの後の家とていふまゝとていふまゝ

西行法師 世の中とていふまゝとていふまゝの後の家とていふまゝとていふまゝ

北女妙 世の中とていふまゝとていふまゝの後の家とていふまゝとていふまゝ

江口尼古蹟 見へりていふまゝとていふまゝの後の家とていふまゝとていふまゝ

过堂 西成郡过堂村より河川渡田郡下渡村より

南八道 南大道村の下より 世俗平田の番所とあり

逆巻 南大道村の下より 北大道の属邑

平太渡口 揚州西成郡平太村より同東生郡今市村へ渡川とていふまゝとていふまゝ

三番 平太村の下より江口より 三番村の下より渡川とていふまゝとていふまゝ

二重新家 平太水九三丁通界ありとあり

紫嶋 字義詳ありとあり 紫嶋と書るは清と訓ありとあり

晒堤 紫嶋の堤よりとあり 晒堤とていふまゝとていふまゝ

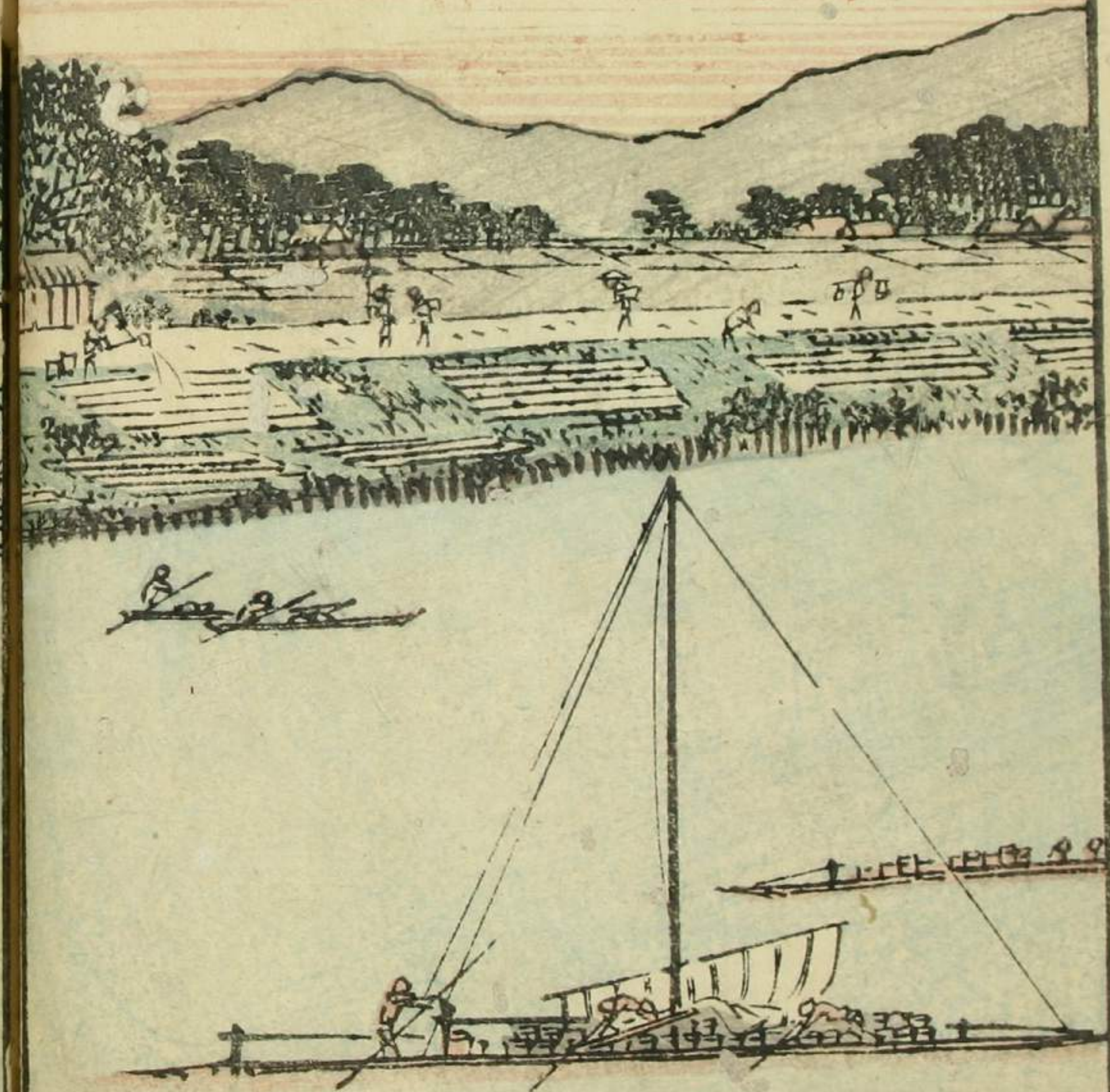
下りラ十一 晒堤の堤よりとあり 晒堤とていふまゝとていふまゝ



菜嶋  
晒堤

半篙春碧  
滑無聲坐  
撫青山遞  
送迎水路  
日長人易  
困雲間喜  
認出金城

嶋掠隱



玉川の舟の

花つふ

くさぶさの

こゝろの

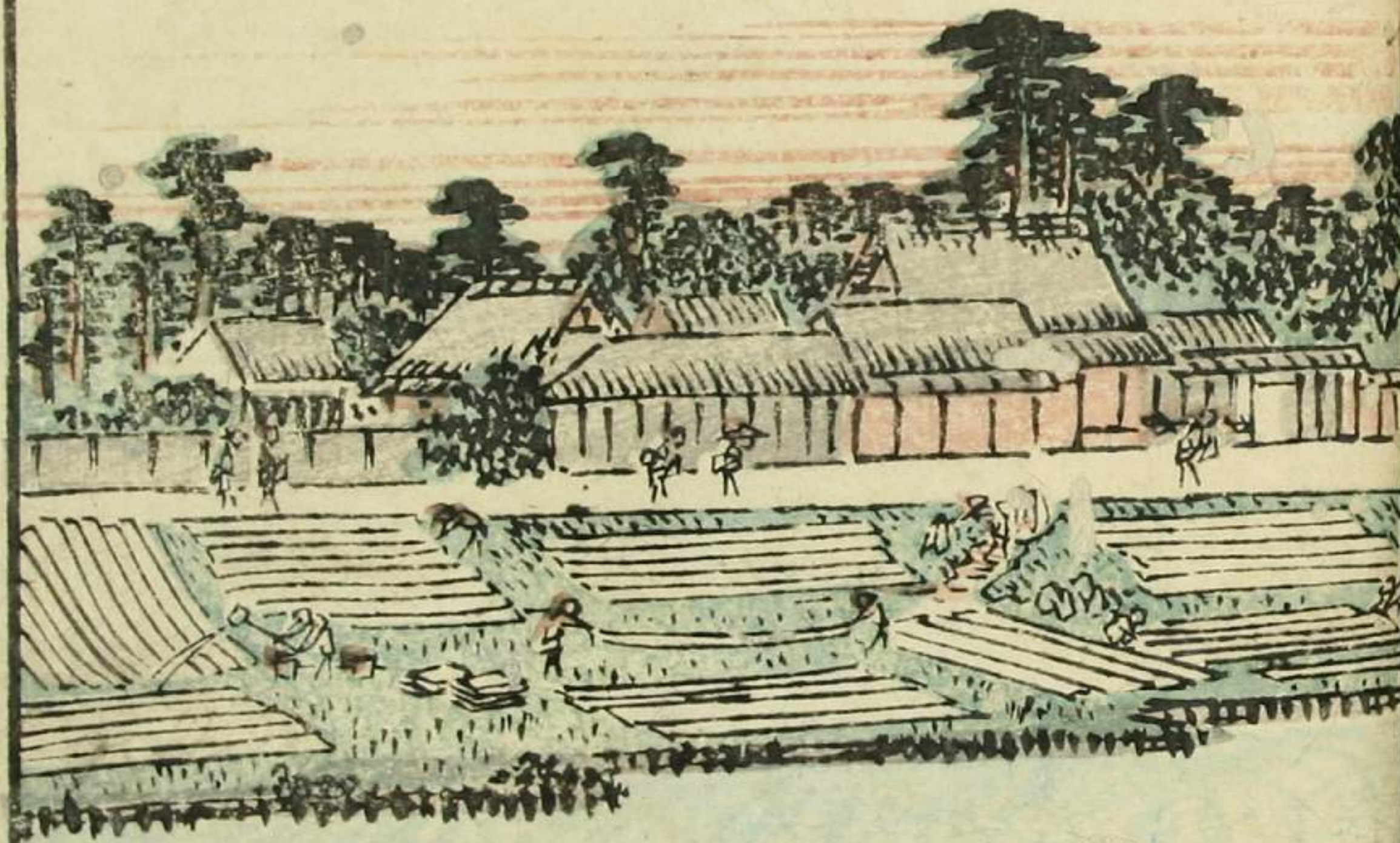
布の白鳥

結成

下萌や

つとてり

船の跡  
芦泊



〇  
二  
十  
二



長柄川 柴橋村の下にあり一名中津川と云ふ後川第二の支流なり北長柄村より西に  
長柄渡口 薬師堂村より北長柄村にあり舟に乗り渡り長柄村にあり  
二重新築より西にあり水上九二十五丁あり

陽をよむしあ ぬらぐ橋とあり 来山

○北長柄 右川の南にあり是より大坂へ行程を里南村に教地堂の旧跡あり  
世々大字の名号ありといひ傳ふれども今なき

長柄橋跡 此橋の四趾古来より詳しむべし其の世々築きぬれぬ世に  
概らぐれん是又も明るべし

接ぶるふ上古の大物浦より東北に里南に福島浦に曾根崎より

北に神崎川まで一面の大沼あり是程大沼の名あり是を難波に

難波入江 難波の浦三津に神津浦と和名は海にあり其

のの中は嶼々多あり今村里の古名の遺るもの多し所謂南中

嶋北中嶋の中は橋本柴嶋濱川口小嶋等々水邊の郷名あり

長柄橋の 孝徳天皇 人王 長柄豊崎宮の御時より彼嶼々架りて

皇居への通路とせしなり今譲は長柄橋の長サ一里あり

言傳くは是一橋の名ありびし嶋より橋へし

其橋の數許多あれども地名より皆長柄橋といひるに

古来より今も北長柄より豊嶋郡兼水庄に至るまで長柄の

橋跡と言つてこれぞ橋杭と稱する朽木新くより堀出の事あり



長柄三ツ頭

長柄川

同渡口

きしきと

アトと

本福よ

柳もる

我黒

けしきも

あしと

きしきと

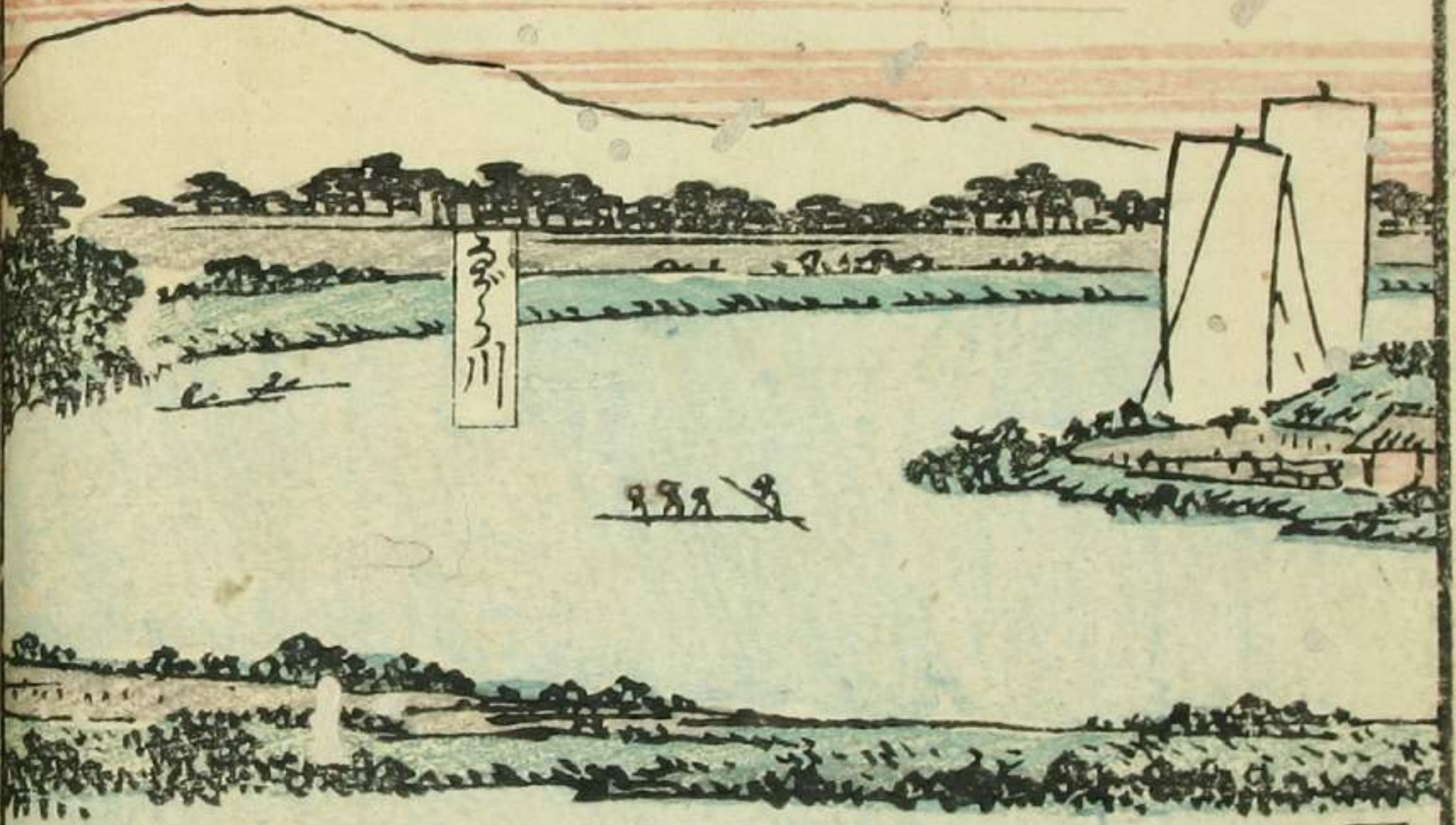
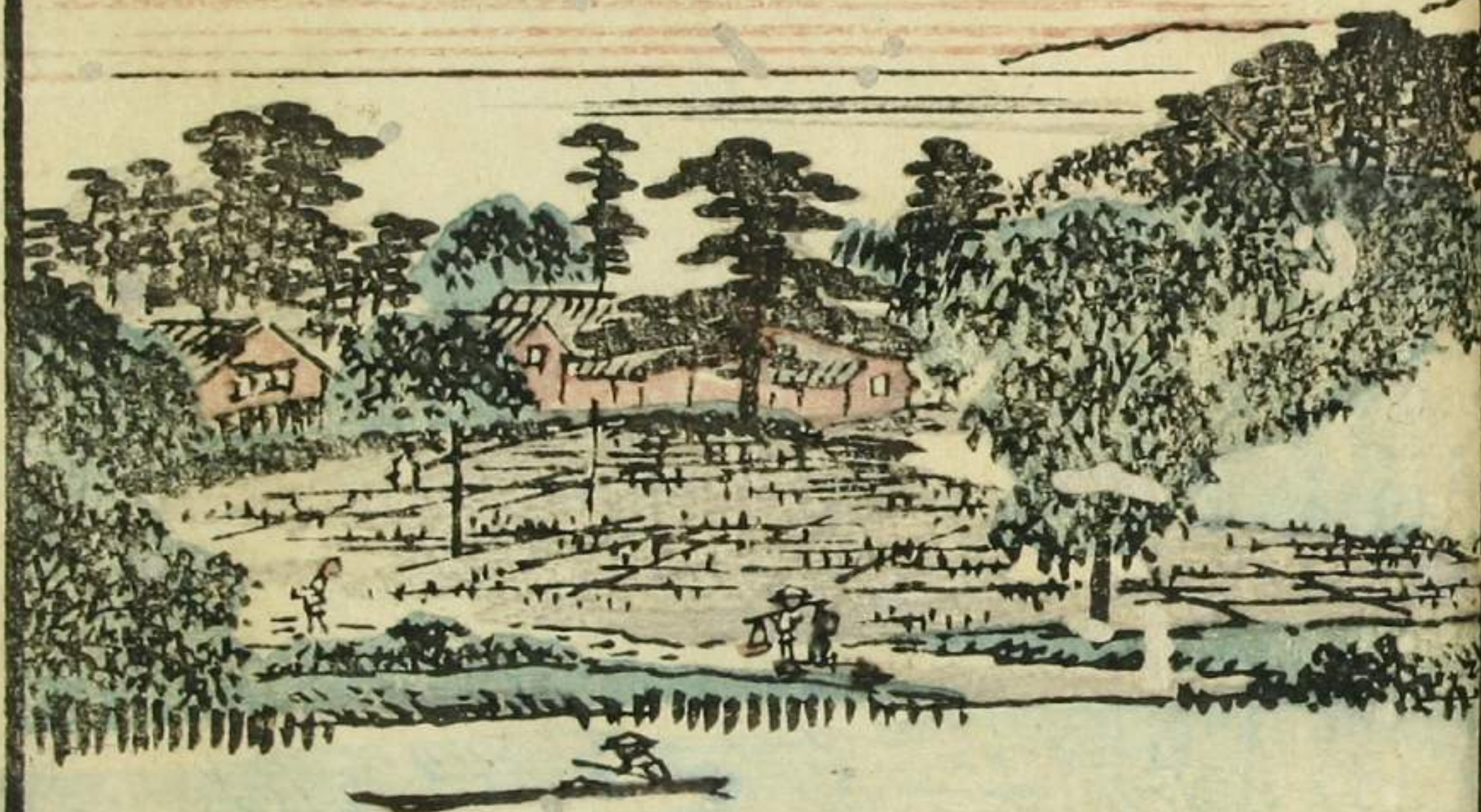
きん人の

けしき

かき

きしきと

江戸  
行成



三ツ頭

淀川

けしきと





其の一挙を以て是とて一築の痛をうらむと知づ。長柄豊崎宮  
孝徳天皇崩じを以て後ハ大和國飛鳥宮ニ遷都し。橋の  
修理も怠り。周威の時江海渺茫し。落損じ。夏多雨り。  
其後 嵯峨天皇 人皇 御宇弘仁三年夏六月再び  
長柄橋と造らし。後世ニ逮ん。神寄川長柄川天満川と  
水路分り。江海あり。田圃と變じ。今の如く村里  
あり。粟田變じ。海とあり。大なる益あり。  
兼 粟田のり。名ノ長柄の橋は。今の人も。定家

毛馬渡口 東生郡毛馬村より西成郡北長柄村へ渡川と云。舟り。渡の長サ百九十間ト云。此より煮賣舟あり。ねろ。同。

○南長柄 北長柄村の下。村中の北田圃の中。嘗て。有未由詳。本尊阿弥陀佛 慈覺大師作長 四尺許

鶴満寺 南長柄村より天台律宗 本尊阿弥陀佛 四尺許 百林の觀世音と安

觀音堂 又堂下と其國の灵場の土とあり。又。建つ。又。長門の國土毛利侯より寄附たり。住昔城下の地主中より出たり。針銘彫銘あり。原ハ異國の器物より。鑄銘云。大平十年二月云。

梵鐘 境内。大樹数株あり。花の盛。鬼貫の墓。鴛鴦の塚あり。系櫻 周流。乘以。又。此。傍。鬼貫の墓。鴛鴦の塚あり。

國分寺 國分村より。眞言律宗 本尊阿弥陀佛 聖德太子御作 座像長三尺五寸許

不動堂 門内の西傍より 地藏堂 同東の傍より 當寺ハ國毎の國分

赤不動尊と稱し 敷石地藏と稱し



木村堤  
樋之口

櫻宮行衆

正花多天

語聲流春

夜波紅燭

青簾行處

客猶荷遊

舫在橫坡

嶋棕隱

殿道よ

ゆき

あはれ

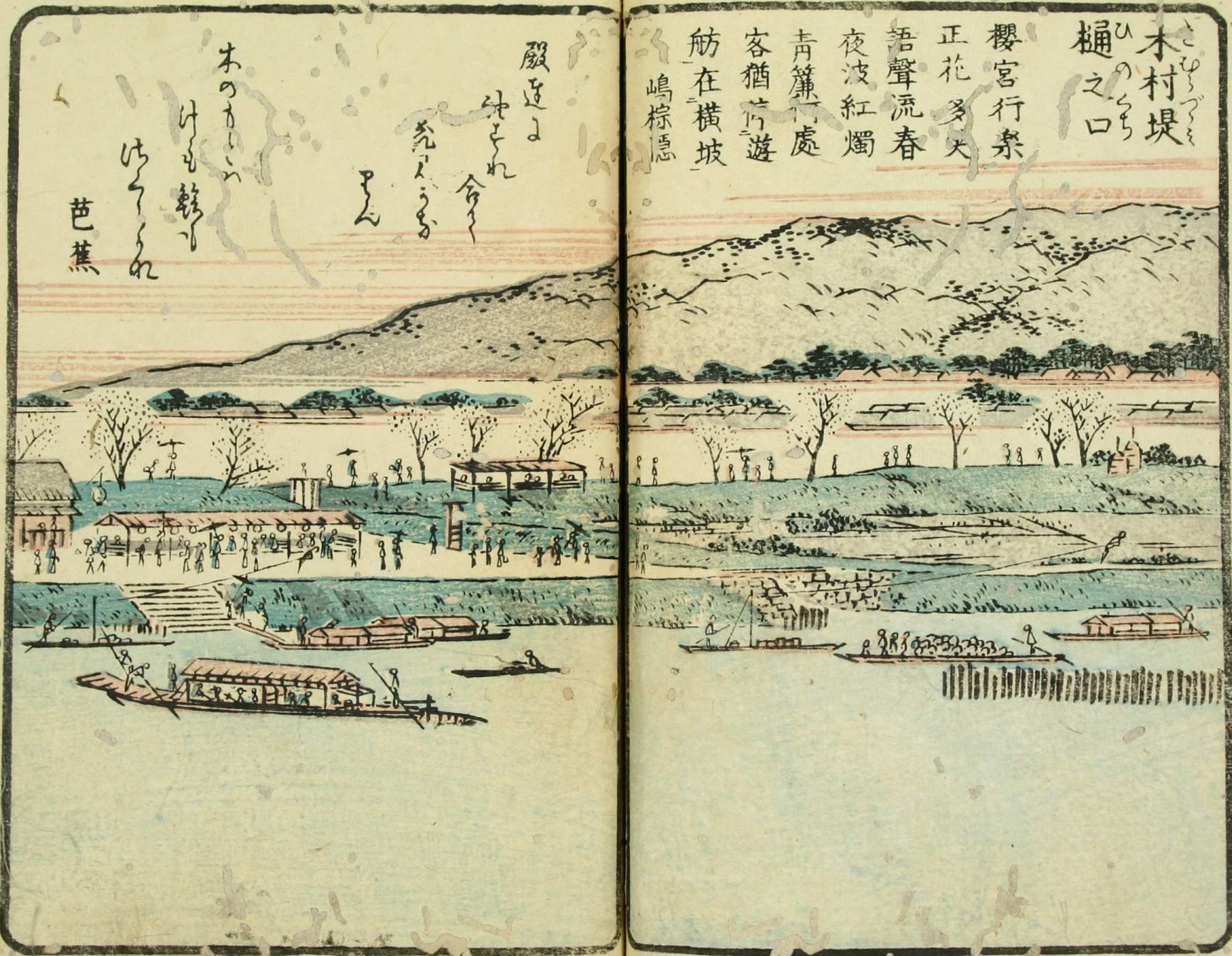
あはれ

木のこゝろ

けしき

ゆき

芭蕉





其二

上への船へ換船と云ふ  
三月十三日より九月十日  
まて候にせらるるに例と  
されば年々とも福客に  
まをきて河舟の形も  
あさねまゝとてしるれと仰  
作意の先覚んと云ふ

三月十三日より九月十日  
まて候にせらるるに例と  
されば年々とも福客に  
まをきて河舟の形も  
あさねまゝとてしるれと仰  
作意の先覚んと云ふ

骸骨の上で

よつと見え

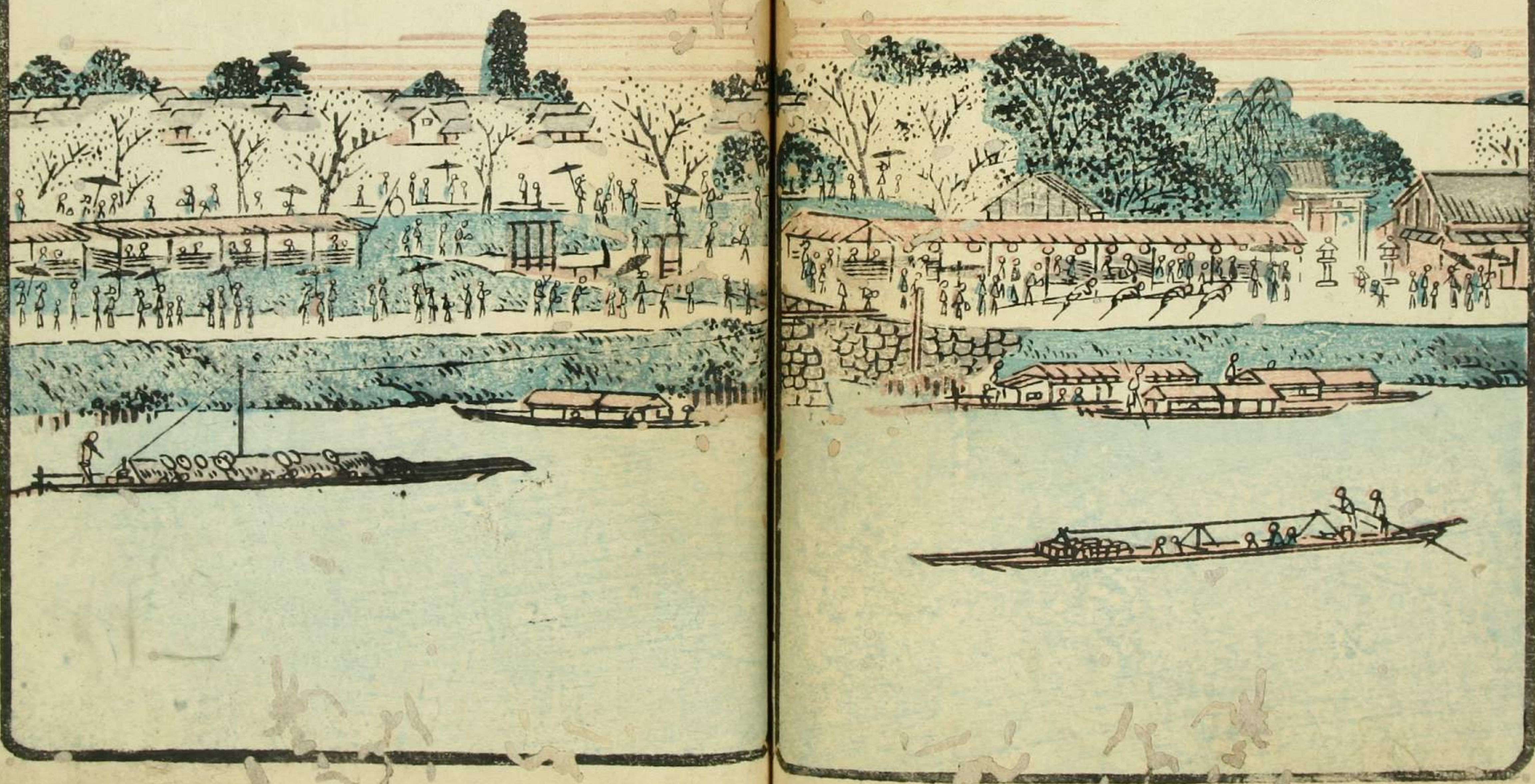
さ〜〜ぬまが

ゆひ〜〜

半休

川舟  
下へ着

あ〜〜の  
〜〜網





寺の其一箇寺にて本願の聖武帝開基の行基僧正より荒無  
の役快圓比丘中興し律院となり国分寺料より一萬辛  
料の施料の事延喜式より文德實録にも見たり後世廢  
し今僅に存せり又東生郡にも国分寺あり何れ一箇寺か  
国分尼寺の旧蹟も後人尚考ふべし

○国分寺

南長柄村に隣り則ち  
右国分寺の村里あり。濱の源光寺鬼子母神堂権現松の此所の西にあり

樋之口

国分寺村の下にあり天満堀川は淀川の流れと通じり樋の口あり  
近年崩壊せりやれ川をせり堤の下に天満宮の祠あり  
右樋之口の堤より此地は淀川の西にあり同分寺村の辺より

源八渡口

樋の口の下にあり西成郡天満原より東生郡中野村へ淀川と  
中野の邊にあり水上八十四間ト云

○川崎

御藏所材木藏所屋敷方川岸に建列せし此所は萩とあり  
洪水の時下り船は皆ひたし客とあり

北長柄三ツ頭より西にあり水上凡廿五丁とあり

川崎神宮

東傍にあり  
元和年間松平下総侯創建給ひ三江

和尚寺發し九昌院建国寺と号し禪宗洛陽建仁寺に

属し御例祭四月十七日此日雑人の集俗と許し是より

浪花市中の言も更なり近郷の貴賤群集し川岸み出



源八渡口

碧波蕩々

拓堤流風

冷櫻林搖

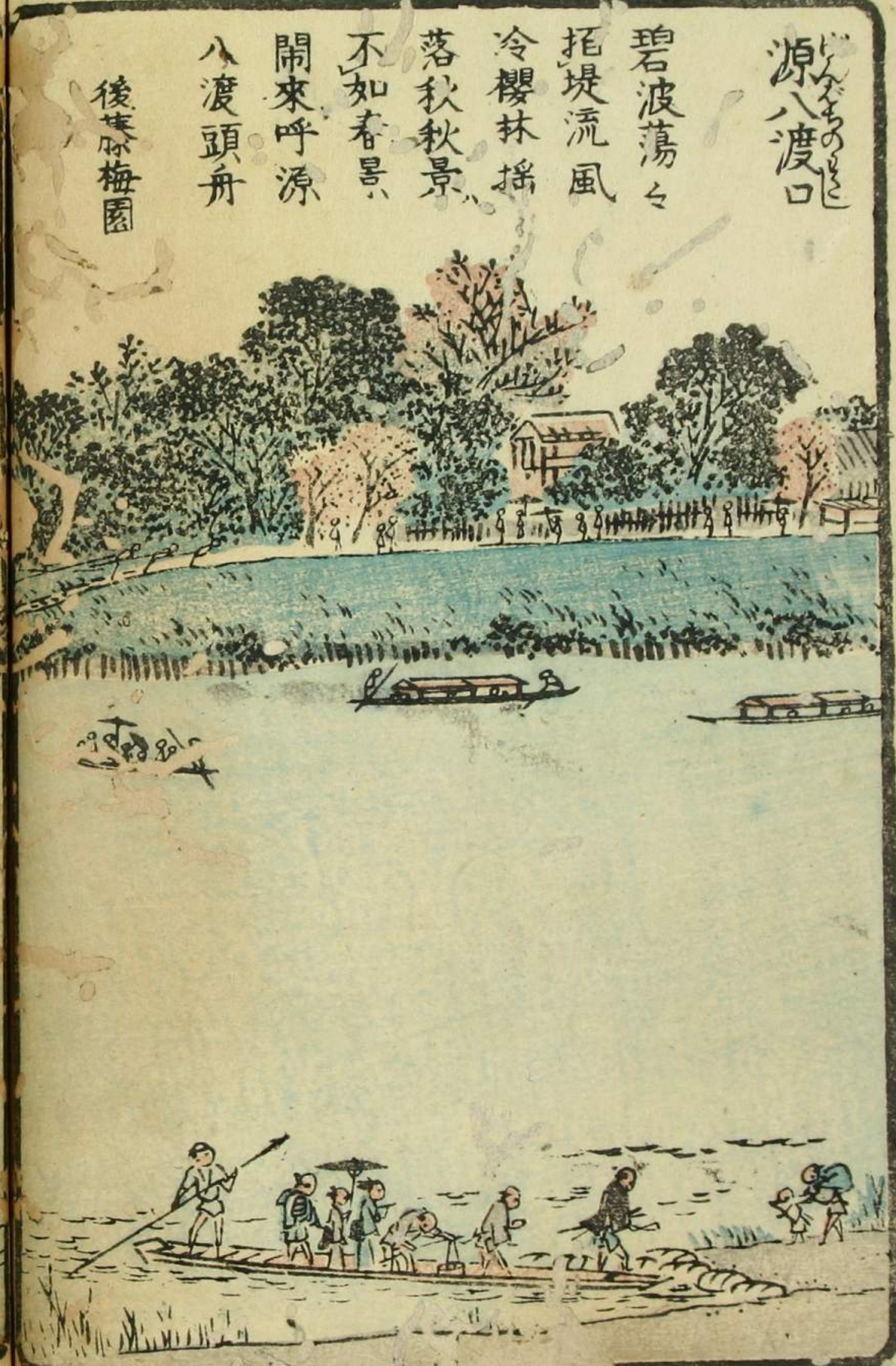
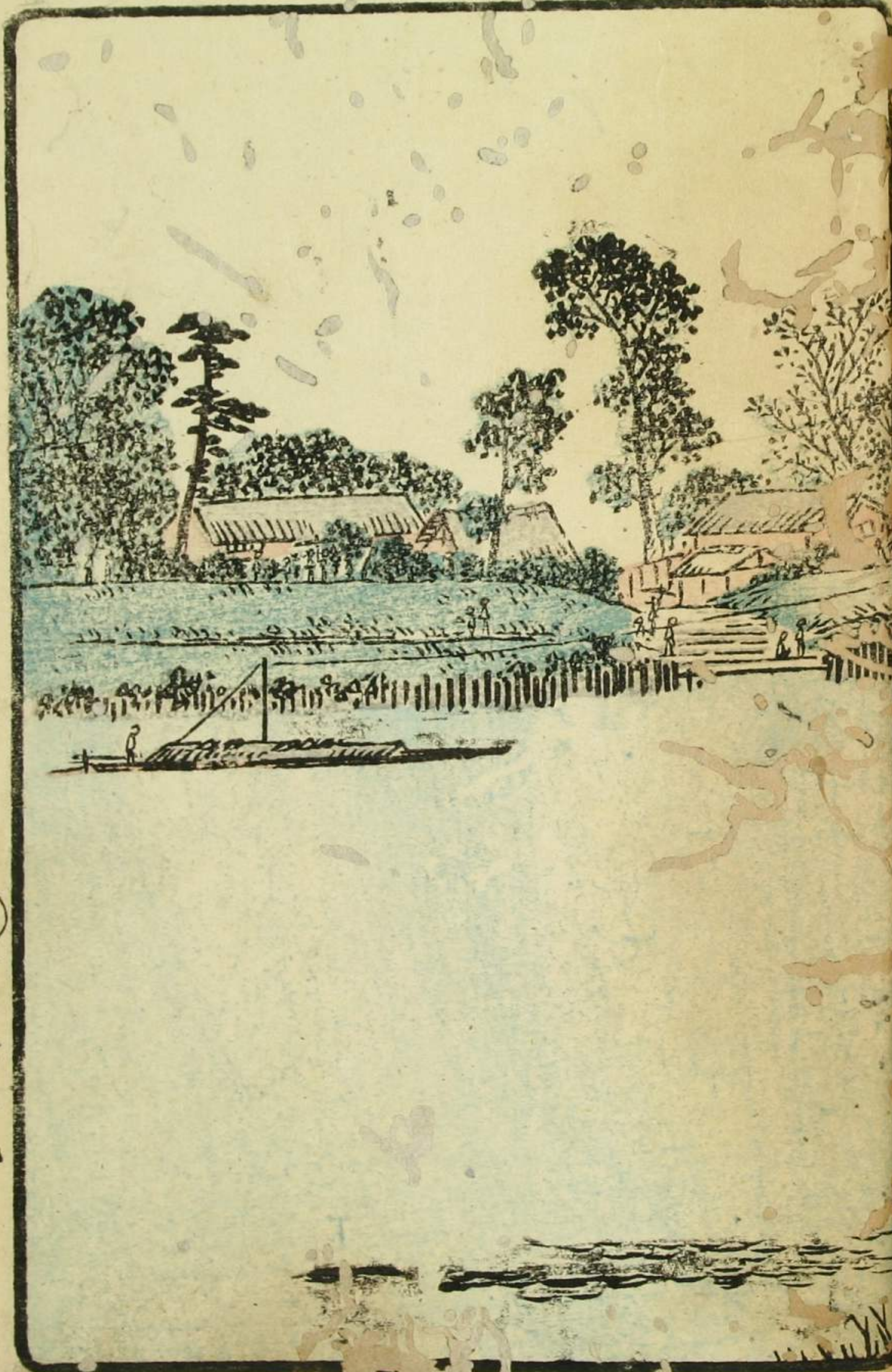
落秋秋景

不如春景

開來呼源

八渡頭舟

後集梅園



源八渡口

源八渡口



遊宴し渡船し舟にて東堤に我松宮小舟をり或は東堤より

西に渡りし多緒とありて兩岸の賑ひ言語小絶せり

さる程に堤の懸茶店つらり貨食店菓子賣とらり

童の手遊お花かんざし鬻ぐ男を所せたまき訂群

恰も舟のりゆらぐ如し首夏第一の大紋日なり

川崎渡口 天満川寺町の渡より此系橋は渡川とて舟船とて舟系舟より

監船所 川舟より渡川船方の老所

天満川北詰 乃南二丁目南詰ハ京橋ニ

此橋下は川の流れ西に折れ

力と尽しく棹を下船の押流し舟と船とまきして大切下り

是と艦下り 淀の小舟も又同じ懸るんやまらて船

依然草曰高名の木上りと言し男人と提ぐるおよ上せて梢と

浅せし甚危く見へ程の言ふとも下り時軒け許み

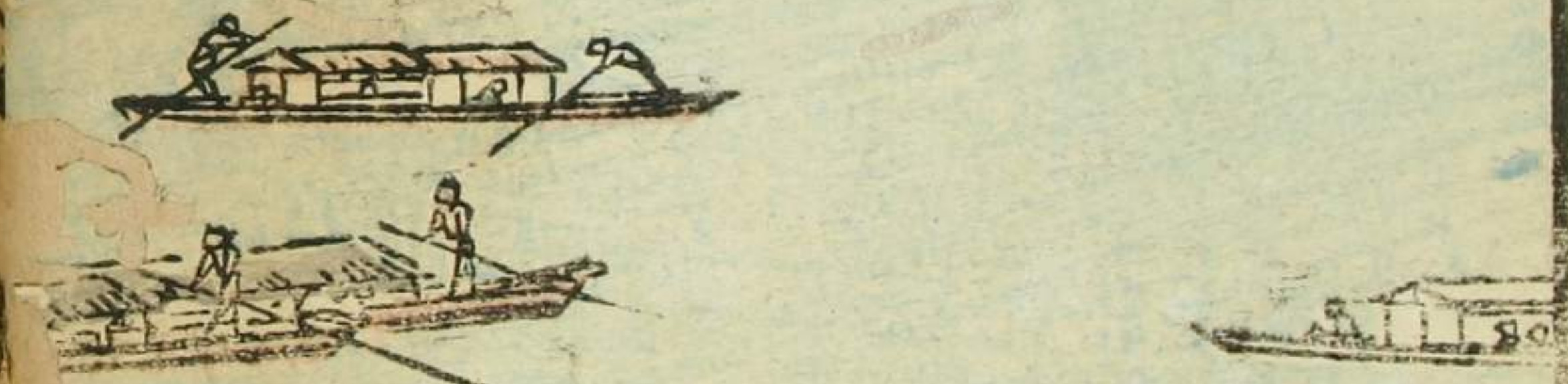
成り過ぎふ心してとらりと言系と掛らりしと斯る成てり

危下りも下らん如何か一言ぞと申侍りし其事し目

らるる枝危き後ハ己がそれ信れが申る過ぎりて成て



川崎濱



船酒人

中とては流

花さうり

分

花と

新や

山溪

中條

花情



川崎濱



其二  
 御材木  
 秋橋

十星流漸送野  
 玩境以夢後拂  
 春霜江南韻蹟  
 梅花在向客依  
 依吹古香

嶋棕隱



委曲の  
 子  
 如くよ  
 波迎  
 驛人









りつものつらむ  
市市場

天神橋

世習滔々趨後本

驚異競相誇

詩人欲賦苦無夜

九月 孫十月爪

廣瀬謙

多絶てハ  
市乃例



石ヤラ一ホ

鼻地夜猶多

舟船隨處皆堪泊

筒々樓燈照暗潮

嶋掠隱



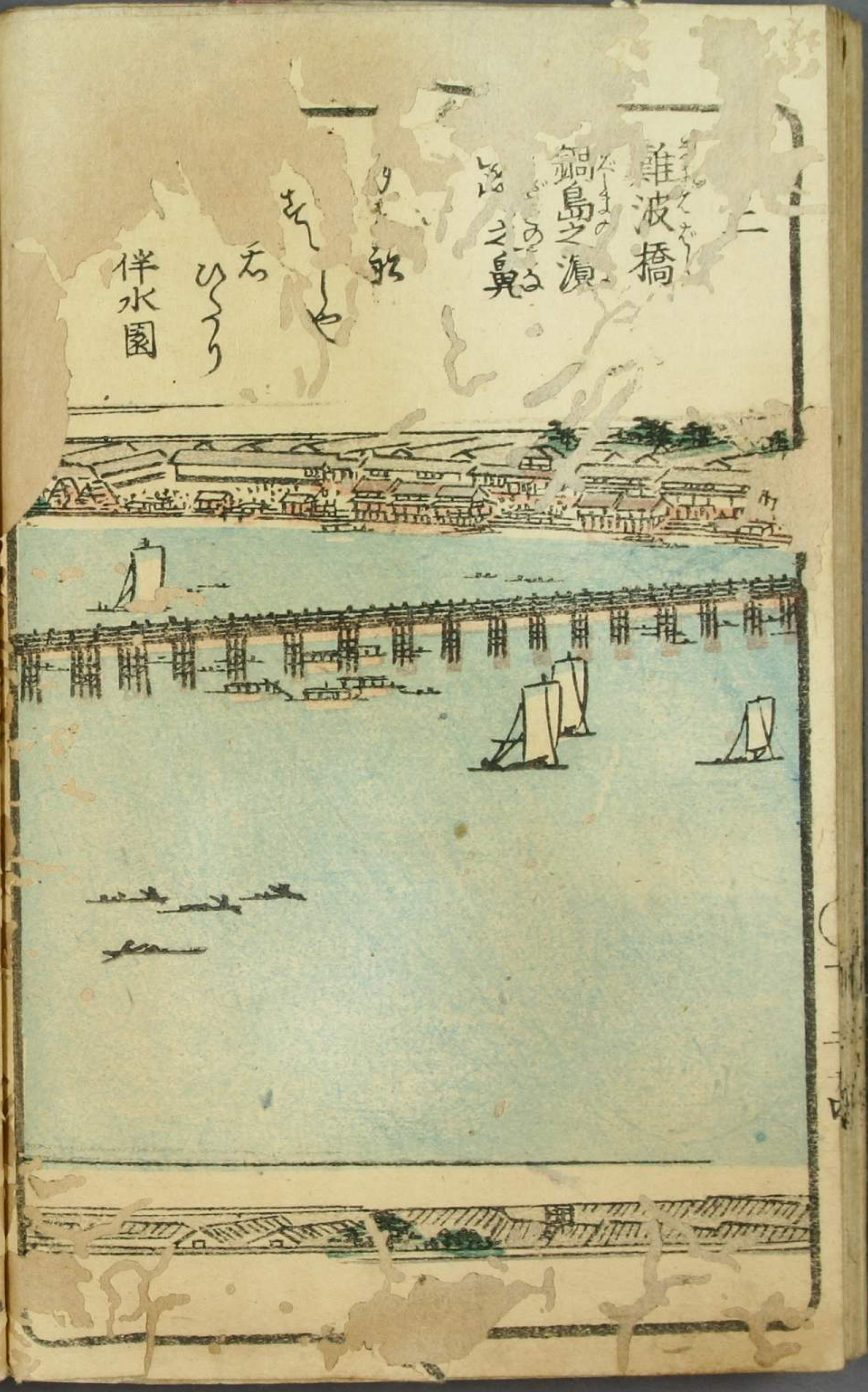
下り二七四

九三





煤原



難波橋

鍋島之濱

伴水園



地 往昔北西へ續き、松原より一が 村上天皇 天皇 天曆年間

勅願より、初め、建立し給ふ所なりとぞ故に天神松原と稱す

森もと古書に見えり地名と天満と号ほりて、天満宮鎮座

給ふ故なり程に靈驗ありたるれば四時、詣人間断す

群集す社内より昔、喇りひの軍書講釈の小屋地

放下師品玉経業の藝新内祭文流行歌の讀賣植木店

萬葉類手抄貝の物なる地をせりまで到り、賑へり

貨食家煮物店、餅屋、饅頭果賣店、

唐守車とるごとく、繁昌し、御八皆官神の余光とす

例祭六月廿五日の鉾流しの神事と号して神輿戎嶋の行

舟り、其壯観の美景なる事、世俗昔く知る所なり又九月

の神事行われ流鏑馬の式あり、殊に賑をり

廿五日の湯人群とるせり就中正月の初天神とて、祇園街に元酒

と立るの土地あり、所謂早春の天鼓日なり

天神橋 北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋

北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋

北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋

北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋

北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋

北詰の天世、丁目南詰の京橋六丁目より、川上より第二の大橋



淀川通じさ 山寺と過く京師に至るの街道より且近郷  
 便宜の道路より諸商家軒とるる萬端のとりつた大なる事  
 得よ結人遊客のび諸色のとりつる農夫天満宮の諸人街  
 混み 終日閑静の時とあるは室に浪死北方第一の繁華なり  
 前結の東ハ軒家の船岸として是又昼夜のりん賑なり 此所  
 より舟の出入此よりゆへ故に船客のりく 是より上陸は又  
 東堀道頓堀の船の橋の下より東堀と下は北濱西横堀の船の  
 大川と下ハ畦畦場さかの船の尚土は城と西は下る船客のりく

其の宜しき際ハ無憂の着岸なり くと甚愛度し尚難波  
 岸の風景ハ前よりくく著せざるくまよ筆とぞむ  
 奈 心あらん人の見せがや津國の強波りくりのちれく見成 能因法師  
 淀川條道法

八見豊後橋より 大阪西門口まで十三里四丁十三間  
 後橋より淀小橋まで一里七丁十間 ○淀小橋より江口三頭まで壹寺里間  
 江口三頭より長石三頭まで二里二丁間 ○長石三頭より天満橋まで卅五町八間  
 天満橋より木津新里まで二里二丁間 ○淀水車より大坂原橋まで水勾塔  
 八丈四尺五寸五分  
 淀川兩岸一覽 大尾



華

曉前鐘成晴翁著述

同

松川半山畫圖

皇都

鎌田醉翁傭筆

宇治川兩岸一覽

曉晴翁著松川半山画

中本全二冊

萬延元年庚申季夏再刻

發兌

江戸日本橋通一町目

須原屋茂兵衛

勢州津八幡町一町目

丁子屋清七

大坂心齋橋安富寺町

秋田屋太右衛門

心齋橋南久寶寺町

伊丹屋善兵衛

后心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

后心齋橋北久室寺町

敦賀屋彦七

京都三條通堀西入町

出雲寺文次郎

同三條通寺町東入町

丁子屋耕文堂

同六角堂之前町

丁子屋源次郎版

書林



